京都・伏見城跡

1　所在地　京都市伏見区東組町
2　調査期間　一九八五年（昭60）一〇月～一二月
3　発掘機関　㈶京都市埋蔵文化財研究所
4　調査担当者　小森俊寛・上村憲章
5　遺跡の種類　城下町跡
6　遺跡の年代　桃山時代～江戸時代初頭
7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

調査地は、伏見丘陵西側の平坦地で、伏見城下の中央西寄りに位置している。江戸時代に作成された『豊公伏見城絵図』などによれば、武家屋敷の一画に位置し、高橋七兵衛の屋敷地と推定される場所である。

（京都東南部）

検出した遺構は、平安時代後期に埋没した二条の溝を除くと、すべて桃山時代以降のものである。

木簡は、径約八m深さ四mの円形の掘込み一、一辺約一〇m深さ四・五mの方形の掘込み二、一角を調査したのみで形状・規模の不明な掘込み四、及び江戸時代以降の撹乱坑六から出土した。ここでは墨痕が比較的よく残る一五点を紹介する。

掘込み一・二は、ともに底部から時計回りに登るスロープが作り出されていて、井戸のような貯水施設をもたない。伏見城下では他にも発見例のあるもので、築城時の土取り穴と考えている。江戸時代前期には埋没しており、木製品を含む大量の遺物が出土した。

なお、紹介するもののほかに、墨痕のない木簡状の木製品が掘込み一から二点、掘込み二から二点出土している。

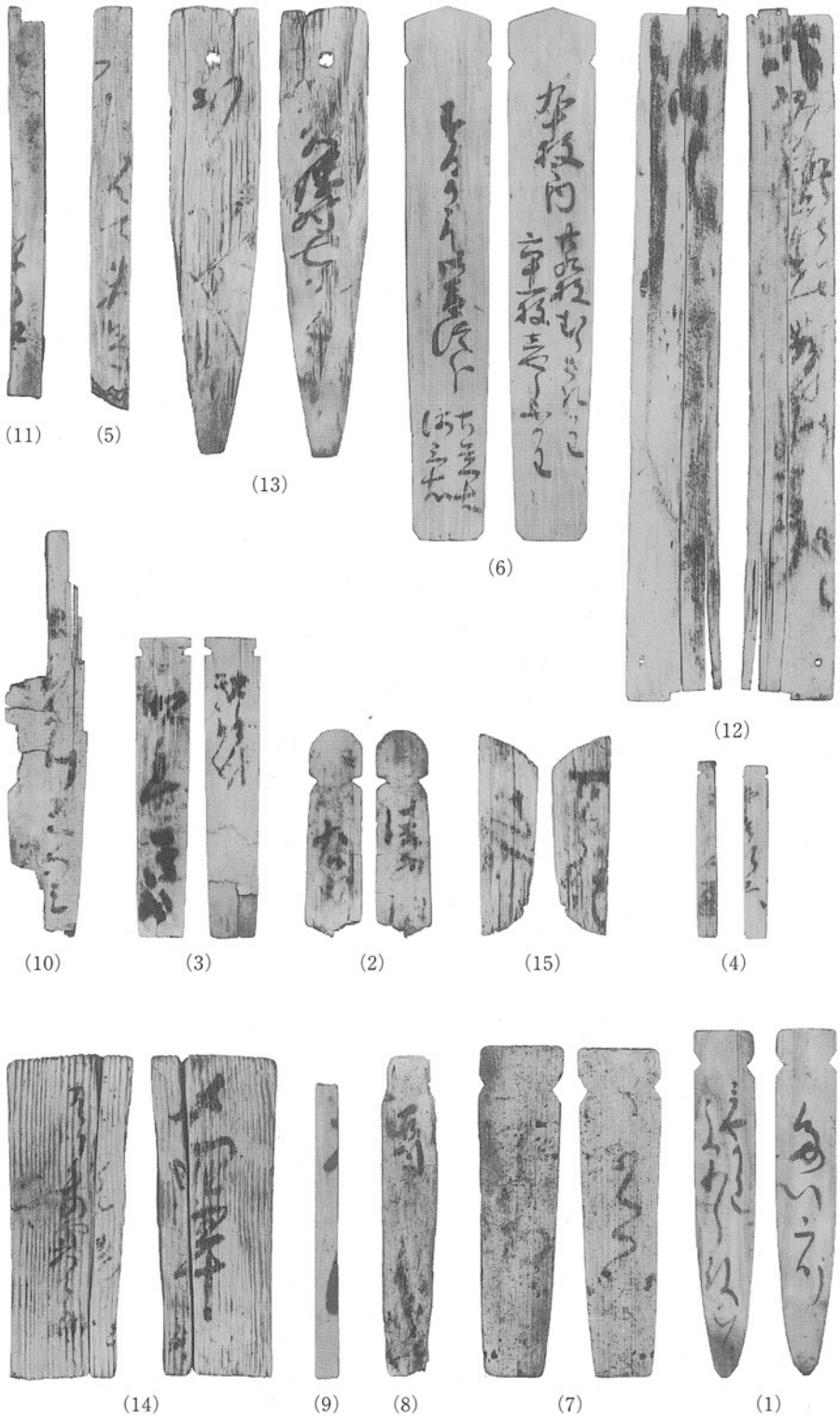
8　木簡の釈文・内容

掘込み一

(1)
・「くたい二つ　　」　123×21×3　033
・「くみやかわ
　文五郎殿まいる」

(2)
・「く□□□〔清カ〕」　(74)×20×2　039
・「く　□」

(3)
・「く□□□〔代カ〕
　き□く　」　106×19×2　032
・「く□□き□」


(11)
(5)
(13)
(6)
(12)
(10)
(3)
(2)
(15)
(4)
(14)
(9)
(8)
(7)
(1)

(4)
・「〈□□□□〔六カ〕」
・「〈□□」　63×(9)×6　032

(5)
「□　□□□□」　145×(15)×3　081

掘込み二

(6)
・「〈九十枚之内廿九枚むらさきかわ
六十一枚しやうふかわ」
・「〈するかニて御音信分　大浜一右
河三右」　190×32×4　032

(7)
・「〈□□□□□」
・「〈□□□□〔川カ〕」　118×29×3　032

(8)
「〈古□」　(118)×21×3　039

(9)
□□　(105)×(8)×7　081

(10)
「〈□□□け□つみ　(147)×(30)×3　039

(11)
□□□」　(140)×(14)×3　081

(12)
・「□□」
・「□□」　246×31×3　061

撹乱坑六

(13)
・「○□□〔久カ〕保□七□□□」
・「○お□〔わカ〕□」　160×33×7　051

(14)
・「〆□□」
・「□□□
はりまや六之□」　115×44×9　011

(15)
・「□」
・「□」　71×(21)×4　065

(1)は、「た（多）い二つ（川）」とあり、鯛二疋に付した荷札。「み（ミ）やかわ（可王）」は地名であろう。(2)は頭部を丸く削る。(3)は切り込みの上辺が弧を描き下辺は直線にする。(5)は、裏面上端を斜めに削る。(6)は、染め革に付けた荷札で二九枚の「むらさきかわ（起可王）」（紫皮）と六一枚の「し（志）やうふかわ（可王）」（菖蒲皮）を音物として「す（春）るか」（駿河）から送ったもの。「大浜一右」「河三右」は、送り主二人の名前であろう。菖蒲革は、藍染めの鹿皮で草花の文様を白くおいたもの。京都の八幡の染革が有名で、菖蒲を尚武・勝武に寄せて多く武具に用いられた。紫革も鎧・刀装・皮足袋などに用いられている。(7)は、下半の表面右角から裏面左角にかけて斜めに径二㎜の穿孔があるが、木簡の内容や用途には

関係ないものであろう。

⑽は、上部に切り込みの痕跡が残る。⑿は、上下に木組みの切り込みがあり、右側面の四カ所に釘孔が認められる。折敷の縁板に墨書したものであろう。⒀は、上部に径五㎜の穿孔を施す。⒂は小型の曲物の底板に墨書したもの。

なお、木簡の釈読にあたっては、京都大学の西山良平氏、京都橘大学の有坂道子氏、滋賀県立大学の東幸代氏のご教示を得た。

（原山充志〈京都市考古資料館〉）

大阪・大坂城（おおさかじょう）跡

1 所在地　大阪市中央区谷町二丁目

2 調査期間　〇S〇五―三次調査　二〇〇五年（平17）七月～八月

3 発掘機関　㈶大阪市文化財協会

4 調査担当者　平井　和

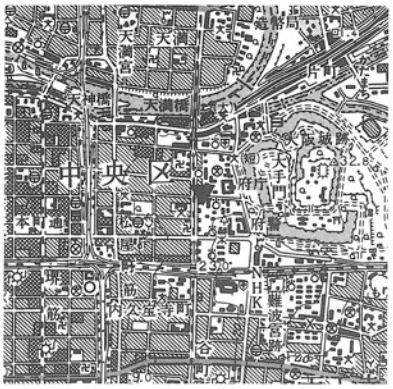
5 遺跡の種類　城郭跡

6 遺跡の年代　豊臣氏大坂城前期（一五八〇年～一五九八年）

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

調査地は大坂城の西方に広がる武家地の一角にあたり、大坂城大手門から約五〇〇m西方、大手通の南側に位置する。調査面積は二七〇㎡である。

木簡は、豊臣氏大坂城前期（天正八年〈一五八〇〉～慶長三年〈一五九八〉）に属する廃棄土坑から計六点出土した。廃棄土坑は一三基確認しており、木簡は漆製



（大阪東北部）